

## 町人権教育研修会（9月17日）より

今年、「SNS等メディアによる人権侵害について考え、自分なりの具体的な実践につなげよう」を重点テーマに据え、下諏訪町人権教育研修会が行われました。今回は、3密にならないように、参加者は関係者のみ（60名参加）とし、講師に「子どもメディア信州」幹事の矢澤智都枝先生と中信教育事務所生涯学習課指導主事酒井邦明先生をお迎えし講演会を実施しました。

「子どもとメディア信州」幹事

矢澤智都枝先生の講演より（抜粋）

演題「SNS等メディアによる人権侵害がおこらない

安心して暮らせる地域社会にするために」



コロナの影響でテレワーク、

オンライン授業等ICT化が急激に進んでいます。「子どもとメディア信州」と県教委が県内41市町村の小中高校生7万人を対象に実施した実態調査からも休校の前後でスマートフォン（勉強を除く）が増えている

ことが分かります。

中学3年生9千人を対象に行った「スマートフォンを使うようになって生活は変わりましたか」という問いの回答結果では、多い順に「使用時間が増えた」

「勉強時間が減った」「睡眠時間が減った」「家族との団らん

の時間が減った」「隠れてやるようになった」「写真を投稿するようにになった」となっています。写真を投稿している人が約10分の1、アプリで課金している人も1千人近くいます。インターネットで知り合った人に会いに行った子もいます。ネットで知り合った人から誘い出されることは、性犯罪に巻き込まれる恐れがあります。裸の写真を投稿すると児童ポルノの恐れがあります。これはとても大きな子どもの人権侵害です。

優しいお姉さんになりすましてだますなど手口は巧妙になっています。おうちの人が「知らない人に会いに行つてはいけませんよ」「知らない人に写真を送つてはいけませんよ」と注意しても、気づいた時には、知らない人ではなくお友だちであったり、信頼できるお姉さんであったり、子どもの心の中にしつか

り入りこんでいるという手口です。どんな子でもいつ巻き込まれるか分かりません。

どうすれば子どもを守ることができるのでしょうか。まず、その機器やゲーム、アプリにフィルタリングをし、子ども用に設定をし直すことが重要です。しかし、子どもは器用ですから解除してしまいます。時間や場所を決めるなど子どもとルールを決める必要があります。例えばおうちの人が見ているリビングで使う（充電する）ことは大切です。しかし、ルールを決めても子どもは守れません。二重ルールがお勧めです。「もし守れなかったらどうする？お母さん取り上げていい？」「守れないと心配だよ」「守れなかったら一日お休みにしようか」などとけんかにならないような言葉がけで、子育ての一環として根気強く向き合っていくことが大切です。子どもがセルフコントロールできるように発達段階に応じてルールを変えましょう。

発行 下諏訪町教育委員会  
編集 生涯学習  
編集委員会

〒393-8501  
長野県諏訪郡下諏訪町4611-40  
(下諏訪総合文化センター内)  
☎ 0266-27-1111(内線718)  
FAX 0266-28-0131  
E-mail=syougai@town.  
shimosuwa.lg.jp

ネットは便利な反面その便利な特性はマイナスには一層はたらくまます。人々の心を傷つけます。「冗談だよ。ノリだよ」と安易な気持ちで相手の心を傷つけます。不登校になったり、転校したり、命を絶つてしまう例もあります。大人社会にもネットいじめはあります。大人の誹謗中傷も絶えません。

コロナの人権侵害も増えていきます。正義感でやっている場合もありますので、書き込んでいる人はそんなに悪いことをしていると思っていない場合もあります。自分は正しいことを言っている、知らせてあげているという気持ちで、実は相手の人権を侵害していることがあります。感染を恐れるあまりに、嘘やデマを流したり、攻撃的な行動をとったりします。

ある朝起きたら、自分が誹謗中傷の被害にあっているかもしれません。

デマに流されない、便乗しない、拡散しない、事実であつてもそれを他の人に広げる必要はありません。事実であつても、

その人のことを誹謗中傷すると名誉棄損になります。誹謗中傷は、言論の自由に値しません。

事実かどうかわからない、不安だなあとという情報にあつたとき、一人で判断せず、家族と話し合ったりいろいろなメディアの出す情報を見たりして事実かどうか見極めることが大切です。デマに流されず、正しい知識を学び、人権意識を高めることがリテラシーを高めることに繋がります。

インターネットは便利ですが、秘密がありません。一瞬にして広がります。誰かがコピーしてずっとネットの中を浮遊します。一生残ってしまいます。



2020子ども白書 40、41ページ 令和メディア研究所 下村健一さん

「コロナニュースからメディアリテラシーを学ぶ」から引用

- 「ソ」… <sup>そくだん</sup>即断するな(初耳の情報と出会ったらいったん止めよう)
- 「ウ」… <sup>うの</sup>鵜呑みにするな(情報には「事実の報告」と「載せた人の意見や印象」が混ざっています)
- 「カ」… <sup>かたよ</sup>偏るな(一つの情報源から聞いただけで話を決めつけないこと)
- 「ナ」… <sup>なか</sup>中だけ見るな(発信する人によってスポットライトの当て方が違います。周囲にまで想像の窓を広げよう)

### インターネット上の誹謗中傷への対応に関する政府パッケージの概要

- ① ユーザー一人ひとりのリテラシーを高める
  - 一人ひとりの人権意識の向上
  - 正しい知識の学び合い
  - スキルの向上
- ② プラットフォーム事業者の取り組み支援
  - SNS等の運営会社の独自パトロールを支援
- ③ 発信者の開示の取り組み、新たな裁判手続き
  - 被害者の苦しむ期間を短くする
- ④ 相談体制の充実
  - インターネット上ですぐに通報できるシステム

リテラシーの向上は、すぐにはできません。リテラシーの向上を確実のものにしていくには、継続した学び合い、顔と顔を合わせて話し合うこと、心の通う支え合いが大切です。

わたしたちにできることは、「敵じゃないよ」「一人じゃないよ」「応援しているよ」「大丈夫?」というメッセージを送り、その人を支えてあげることです。

## 挨拶



下諏訪町教育長

まつざき  
松崎

いずみ  
泉

本日は、人権教育を推進する関係機関の皆様、保育園、小中学校、特別支援学校、高等学校の皆様、町役場各課の皆様など、多くの皆様ご参加のもとに、令和2年度「下諏訪町人権教育研修会」が開催できますこと、誠にありがとうございます。日々のご勤務の中で一人ひとりの子どもたち、保護者及び地域の皆様への温かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

当町では、「人権感覚の育成と尊重」に関する方針といたしまして「他人を思いやり、命を大切にする社会を実現するため、町民一人ひとりが人権問題を自分の問題として捉え、考えることができるよう、地域、学校、家庭や、関係機関の連携により、各種研修会の実施、啓発活動などを通じ心情に訴える人権教育を一層推進します」と発信しています。

昨年度まで、「命を大切にする社会の実現」に向け、研修を深めてまいりました。絵本の読み聞かせ、資料本の朗読公演などをお聴きいただき、そのあとの分科会を通し、ご参加の皆様一人ひとりの思いを存分に語り合っていました。

本年度は、重点テーマを「SNS等メディアによる人権侵害について考え、自分なりの具体的な実践につなげよう」とさせていただき、喫緊の課題であります、新型コロナウイルス感染症防止を含め、SNS等による誹謗中傷や根拠のない無責任な噂の書き込みや拡散による人権侵害の事例から、「私ならこう考える」「私はこのような行動・発信をしたい」など、自分事として考える機会となりますように、講演会形式の研修会を計画させていただきました。（以下略）

## 研修会参加者より

### SNSによる誹謗中傷

下諏訪町税務課

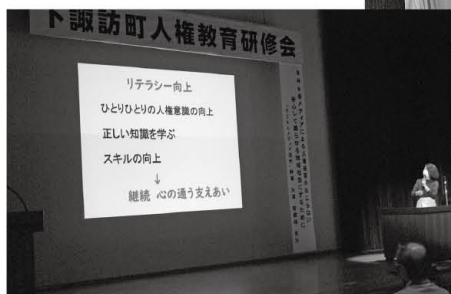
いわさき  
岩崎

やよい  
弥生

現代社会においてSNSを利用することは当たり前になってきていると思います。SNSは正しく使うととても便利なものですが、間違った使い方をするとトラブルの原因にもなり得る危険なものです。

最近では、芸能人の方が誹謗中傷を苦に自殺してしまい、誹謗中傷が大きな社会問題になっています。誹謗中傷は芸能人に限ったことではありません。コロナに感染した人々への誹謗中傷も問題となっています。これには日本人の特性や歴史、文化などが大きく影響を及ぼしています。「コロナの感染を自業自得だと思うか」という質問をしたところ、「自業自得だと思う」と回答した人が海外では1パーセントほどだったのに対して、日本では11パーセントを超えたことに衝撃を受けました。コロナが感染された方に悪意

ある言葉をぶつける人がいる一方で、思いやりのある言葉をかける人もいます。当たり前のことですが、SNSの誹謗中傷をなくしていくには、一人ひとりが相手のことを思いやる気持ちを忘れずに生活していくことが大切だと思います。そして、相手を傷つける言葉ではなく、相手が笑顔になれる言葉を伝えていきたいと思いました。





県教委より (抜粋)

中信教育事務所生涯学習課指導主事

酒井 邦明 先生  
さかい くにあき

全国的に新型コロナウイルスに関わるデマや誹謗中傷が起きている中、医療関係者も含めて56人のクラスターが発生した与論島では、差別や誹謗中傷があったという相談は地元の役場に一件も寄せられていないそうです。島の外にある病院に入院していた人が回復して帰ってきたときに、島の人たちは「おかえり」とか「大丈夫だったか？」といった言葉をかけて迎えたそうです。感染した女性会社員の方は「テレビで感染者への誹謗中傷が取り上げられていたので、島に戻るのが少し怖かった。温かく迎えてくれて本当に嬉しい」と話されたそうです。島の危機を温かな人と人とのつながりによって乗り越えた与論島の人たちは、きっと自分たちの島のことを誇りに思っていると思います。

愛媛県では、「ただいま」「おかえり」の気持ちを表す活動として特産の柑橘類の色にちなんでシトラスリボンプロジェクトとして取り組みを始めました。リボンの三つの輪で表現するのは、地域と家庭と職場(学校)です。長野県では、このシトラスリボンプロジェクトに賛同し、心身共に安心した暮らしを続けられる社会をめざしています。日常的に「ただいま」「おかえり」と言い合える人と人との心が通い合う町づくりが、そこに暮らす人たちの安心や安全につながっていくはずです。そして、「自分たちの町っていいな」と誇りにできるような、自慢できるような、そんな魅力あふれる町へとつながっていくのではないのでしょうか。

誰もがコロナウイルスに感染する可能性があります。感染した人の中傷し、差別し、排除するのではなく、支え合い、助け合うことで、みんなが安心して安全に暮らすことができる町に向けた取り組みを進めたいものです。そのためにはまず私たち一人ひとりが差別を生むことがないように、「SNSでは自分が確かめることができる情報しか発信しないこと」、「身近な人とのつながりを大切にすること」、この二つに取り組みんでいただきたいと思えます。

## 研修会参加者より

### 人権教育研修会に参加して

下諏訪町 社会福祉協議会  
千田 幸司 さん  
せんた こうじ

下諏訪社協で障がい者の方の相談支援を担当しています。ネットでの人権侵害と私の業務内容との共通点は「些細な一言」が相手を傷つけてしまう、というところだと思います。ネットでは噂レベルの不確かな情報を元に「些細な一言」が生まれ、他人を傷つけてしまいます。相談業務では、情報不足で相手の事をよく知らずに「些細な一言」を言うことで相手を傷つけてしまいます。それは無意識な事が多く、言われた相手の「痛みがわからない」まま自覚がありません。

今回の研修内容を参考に、相手に対して言葉を発する時には様々な情報を精査し、確かな情報を基に話す事が重要だと考えます。特に相談業務では不用意な言葉が取り返しのできない事態になる恐れがあるため、言葉は「凶器」にもなり得ることを自覚して、今後の業務に臨みたいと思えます。

## 参加者からの感想

子どもたちがなぜ動画や自分の写真を送ってしまうのか動画を通して巧妙な手口があることが分かりました。どうすれば子どもを守ることができるか。使う時間や場所、二重ルールが大切であると感じました。子どもと向き合い保護者が気長に子どもと関わっていかれるよう、学校でも伝え方や伝える場を工夫していきたいと思えます。

・コロナの影響により、大人も子どももメディアに接する時間が増え従来からは考えられないようなことが起きている中、メディアコントロールからセルフコントロールの言葉通り、周りに踊らされない自分を確立することが必要だと感じました。

・現在のメディアと子どもの関わり合いを大人がどうコントロールするかは、普段の家庭での対話だと思えます。子どもがSNSで困ったときに、一人で悩んでしまうときに、親にすぐに相談できる環境をつくっておくべきだと思えました。

# 図書館からのお知らせ

図書館では様々なイベントを実施しています！



毎年恒例の図書館まつり  
今年は4日間開催しました！



10月10日こども古本市  
天気の悪い中、大勢の方  
にご来館いただきました！

「すみちゃんと下駄スケート」原画展



下諏訪俳句会



下諏訪Bookプロジェクト  
おすすめ本紹介POP展



下諏訪写真昔語り



やまびこの会40周年記念展

期間中、様々な展示  
も行いました

12月も工作会、クリスマスのおはなし会  
など様々なイベントを行う予定です。お楽しみに♪  
(写真は昨年の様子)



おはなしのへやクリスマス会  
12月19日(土)10:30~



クリスマス工作会  
12月6日(日)10:30~



## 町立図書館のお知らせコーナー



### 下諏訪町立図書館やまびこの会会員が 朗読録音奉仕者の表彰を受けました

公益財団法人鉄道弘済会は毎年朗読録音奉仕者の表彰を行っています。今年は視覚障がい者等のために音訳をしている矢澤満恵子さんと山崎裕子さんが奨励賞を受賞されました。矢澤さんの代表作は黒川伊保子著「妻のトリセツ」です。山崎さんの代表作は佐藤けん子著「泉鳴る」です。やまびこの会では「クローズアップしもすわ」も音訳しています。下諏訪町ホームページに掲載されている広報のページで聴くことができます。ぜひ聴いてみてください。



下諏訪町立図書館 芦澤

## ★ 令和3年 下諏訪町成人式のお知らせ

成人該当者：平成12年4月2日～平成13年4月1日までに生まれた人



期 日：令和3年1月10日（日）

受 付：午前11時30分

入 場：受付終了次第

開 式：正午

場 所：下諏訪総合文化センター

該当者（当町在住の方・親等が在住の方）には、出欠席の案内を11月中旬にお送りしました。必要事項をご記入の上ご返信ください。

参加される方はマスクの着用など新型コロナウイルス感染症の感染予防にご協力をお願いします。

問い合わせ：下諏訪町教育委員会 生涯学習係 ☎27-1111（内線718）

## ＋LINE＋

私は今年の4月に埼玉から下諏訪町に引っ越してきました。約8カ月間下諏訪町で過ごして私が感じた「下諏訪町のいいところ」をご紹介しますと思います。ありきたりの事ばかりかもしれませんが、皆様と一緒に考えてくださるとうれい

です。

- 1 すれ違いざまにあいさつをしてくださる

- 2 道路を横断する際に止まってくれる車が多い

- 3 心に余裕があり優しい方が多い
- 4 夏でも日陰に入ると涼しい

- 5 職場の方から野菜や果物がもらえる
- 6 いつでも自然に触れることができる

- 7 人と人とのつながりが強く温かい
- 8 やると決めたときの団結力がすごい

等様々な魅力を感じることが出来ました。

今年もあと一カ月で終わります。一年間あまり明るいニュースがありませんでしたが、身近にある良いことに目を向け明るく元気に生きていきたいと思えます。皆様の一年間も「良い一年だった」と締めくくれるよう願っております。

（石上璃奈）